

## 2. 底生生物・魚類調査

### 2.1 調査項目

#### (1) 底生生物等の生息状況調査

- ① 魚介類、底生生物（大型）
- ② マクロベントス（小型）
- ③ 陸水生物

### 2.2 調査時期

平成17年 8月16日、21日～24日

### 2.3 調査範囲

調査範囲を図2-1に示す、3ライン調査及び泡瀬第1雨水幹線である。

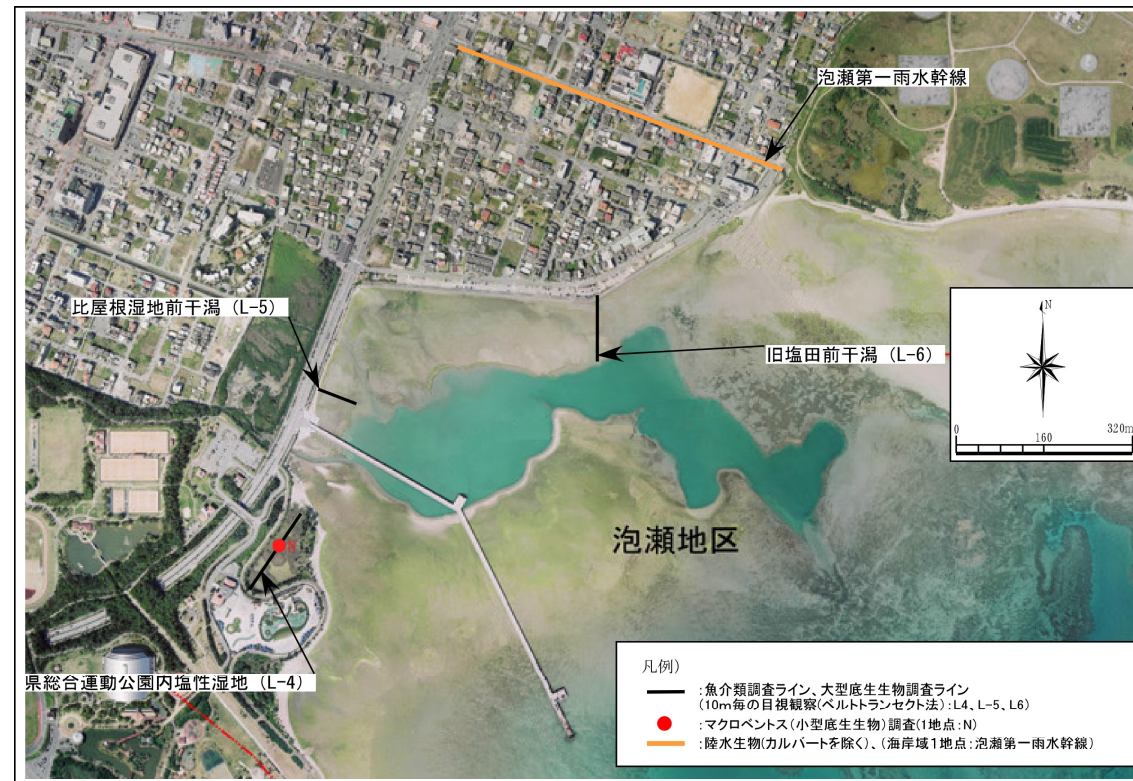


図2-1 底生生物・魚類調査地点図

## 2.4 調査方法

### ① 魚介類、底生生物(大型)調査

#### a) 生息状況

生息状況、比屋根湿地全域をマングローブ域、干潟域、水路周辺、ヨシ原、石積み護岸周辺、その他の6つの環境に区分し、それぞれの環境において生物の生息状況調査を行った。調査は、干潮時に踏査を行い目視観察を行った。この時、必要に応じてタモ網、投網、スコップによる捕獲も行い、確認された種と個体数を記録した。生物の個体数については、CR法により概略的な把握を行った。CR法の記号は既往調査に準じて、以下の通りとする。

CR法で用いた記号

G:1000個体以上

m:100～1000個体未満

c:20～100個体未満

+ :5-20個体未満

r:5個体未満

投網による捕獲では、水深の浅い箇所や瀬にいる魚類の捕獲を目的に実施した。網打ちは、歩きながら網を打つ「徒打ち」を基本とし、水路において10回以上行った。なお、タモ網による捕獲を行う場所では、投網の調査を先に行い、タモ網による調査の影響を受けない様に配慮した。

タモ網による捕獲では、石の下にいるハゼ類等の底生魚や甲殻類を捕獲することを目的に実施した。

スコップによる捕獲は干潟やマングローブ内で行い、底質内の貝類や甲殻類を捕獲することを目的に実施した。

これらの調査においては、現地にて同定可能な種については、可能な限りその場で記録を行い採集を控えるよう努めた。現場での同定が困難な種については、10%ホルマリンで固定を行い、室内に持ち帰り同定を行った。

#### b) ライン調査(ベルトトランセクト法)

比屋根湿地および周辺海岸の6ラインにおいて測線を設定し、この測線の両側約1mの範囲について生物の目視観察を行った(ベルトトランセクト法)。また、各ライン上で等間隔(10m毎)に採集地点を設け、生物の採集を行い、各採集地点での定量的なデータも得た。調査はメジャー等を利用し、比屋根湿地と周辺海岸の生物の生息状況(個体数、密度)の他、代表的な出現種等も合わせて図示した。

### c) トラップ採集

満潮時にカニカゴ、フィッシャーキラー、刺網等のトラップを設置した。カニカゴは、比屋根湿地内に5個以上設置し、餌に冷凍サンマを用い、日没前に設置して翌朝回収した。フィッシャーキラーは、湿地内の水路において5個以上設置し、餌として練り餌を用いた。設置後は約2時間後に中に入った生物を回収した。回収後、捕獲した生物の種数、個体数を記録した。刺網は比屋根湿地南側のカルバート近くにおいて、夕方に設置し翌朝に回収した。

### ② マクロベントス(小型)

底生生物は、コドラート(30cm×30cm方形枠)内の底質を直接採取して試料とした。採取した試料はホルマリンで固定した後、持ち帰り、試験室で1mm網目の篩にかけ、篩上に残った生物を顕微鏡により同定・計測し、出現生物の総湿重量を計測した。

### ③ 陸水生物

比屋根第2雨水幹線および泡瀬第1雨水幹線において目視観察、採集、トラップ調査を行った。目視観察は水路脇を踏査し目視にて生物を確認した。採集はタモ網等を用いて採集を行った。トラップ調査はカニカゴおよびフィッシャーキラーを各5個ずつ設置した。カニカゴは、水路内に3個以上設置し、餌に冷凍サンマを用い、日没前に設置して翌朝回収した。フィッシャーキラーは、水路において3個以上設置し、餌として練り餌を用いた。設置後は約2時間後に中に入った生物を回収した。回収後、捕獲した生物の種数、個体数を記録した。

## 2.5 調査結果

### (1) 調査結果概要

#### ① 魚介類、底生生物(大型)

県総合運動公園前の塩性湿地である L-4 においては、陸水性の生物であるトンボ類、ゲンゴロウ類、カダヤシ等の他に汽水性の生物であるフトヘナタリ、アミメノコギリガザミなど、貝類 5 種、甲殻類 5 種、昆虫類 8 種、魚類 3 種の合計 21 種が確認されている。

比屋根湿地前の干潟である L-5 においては、地盤の高い石組みの護岸部でクビキレガイ、オカミミガイ科、タマキビガイ科などが、底質が砂泥な干潟部でウミナナ類、フタハオサガニ、シオマネキ類、トカゲハゼ、オキシジミの他、所々に存在する転石下にシマベッコウバイ、イガイ科、ガザミ科などが出現していた。また、水路部においては、ボラ科、ドロクイ、ミナミクロダイ等の魚類が出現し、貝類 45 種、甲殻類 26 種、魚類 16 種、その他 2 種の 89 種が確認されている。

旧塩田前干潟である L-6 においては、テトラポット周辺で、アマオブネガイ科、タマキビガイ科などが、底質が砂礫な干潟部でヤドカリ科、ガザミ科、アキガイ科アラスジケマンガイなどが出現しており、貝類 32 種、甲殻類 23 種の合計 55 種が確認されている(表 2-1、表 2-2 参照)。

#### ② マクロベントス(小型)

県総合運動公園前の塩性湿地内にある調査地点 N において確認されたマクロベントスは、*シバヒガカニ*の 1 種であった(表 2-1、表 2-2 参照)。

#### ③ 陸水生物

泡瀬第一雨水幹線においては、雨水幹線の出口周辺でスナガニ科、ベンケイガニ科、サバヒー、ボラ科が出現し、雨水幹線内でオカミミガイ科、モクズガニ科、ミナミオカガニ、カワズズメが出現し、汽水性生物が殆どであった。出現種は、貝類 4 種、甲殻類 8 種、魚類 4 種の合計 16 種であった(表 2-3 参照)。

周辺海岸域及び雨水幹線での調査において確認された貴重種は、貝類 14 種、甲殻類 5 種、魚類 2 種の合計 21 種が確認された。

貴重種が最も多く出現したラインは L-5(16 種)であり、トカゲハゼを始めとして、イチョウシラトリやオキシジミなど、砂泥質の底質を好む生物が多く見られた(表 2-4 参照)。貴重種が最も少なかったのは、泡瀬第一雨水幹線であり、タイワンヒライソガニのみが確認された。(表 2-5 参照)。

表2-1 周辺海岸域で確認された種一覧（その1）

番号	門	綱	目	科	種名	学名	L-4 (魚介類・ 大型)	L-5 (魚介類・ 大型)	L-6 (魚介類・ 大型)	N (底生生 物小型)
1	腔腸動物	花虫	イソギンチャク	セトモイソギンチャク	マキガ イソギンチャク	<i>Paranthus sociatus</i>		●		
2	星口動物	サナダホシムシ	一	サナダホシムシ	サナダホシムシ綱	Phascosomatidea		●		
3	軟体動物	腹足	原始腹足	ニシキウスガイ	オキナフシタ タシカ イ	<i>Monodonta labio</i>		●		
4				チヂキ	カシキ	<i>Lunella coronata granurata</i>		●	●	
5				アモア 袖イ	アモア 袖イ	<i>Nerita albicilla</i>		●	●	
6					リュウキュウアモア イ	<i>Nerita insculpta</i>		●		
7					ヒメアモア	<i>Nerita helicinoides tristis</i>		●		
8					キバ アモア イ	<i>Nerita plicata</i>		●		
9					マルアモア	<i>Nerita squamulata</i>		●	●	
10					コシタ カマカ イ	<i>Nerita striata</i>		●		
11			中腹足	コカク カマキヒ	コカク カマキヒ	<i>Littoraria pintado</i>		●	●	
12				ヒメウス ラタマキヒ	ヒメウス ラタマキヒ	<i>Littoraria intermedia</i>		●	●	
13				ホノス ラタマキヒ	ホノス ラタマキヒ	<i>Littoraria undulata</i>		●	●	
14				アヲタマキヒ	アヲタマキヒ	<i>Littoraria coccinea</i>		●		
15				イホ タマキヒ	イホ タマキヒ	<i>Nodilittorina trochoides</i>		●		
16				カワツタマキヒ	カワツタマキヒ	<i>Nodilittorina vidua</i>		●	●	
17				ゴマフニナ	ゴマフニナ	<i>Planaxis sulcatus</i>		●		
18				カニニナ	カニニナ	<i>Baillaria cumingii</i>		●	●	
19				リュウキュウカニニナ	リュウキュウカニニナ	<i>Baillaria jectosiphonata</i>		●		
20				イホ カニニナ	イホ カニニナ	<i>Baillaria zonalis</i>		●	●	
21				チヂキ タカワニ	チヂキ タカワニ	<i>Thiara riqueti</i>	●			●
22				イホ アヤカワニ	イホ アヤカワニ	<i>Thiara granifera</i>	●			
23				カワツタカワニ	カワツタカワニ	<i>Thiara tuberculata formosana</i>	●			
24				フトヘナナリ	フトヘナナリ (イトカヘナナリ)	<i>Cerithidea rhizophorarum</i>	●			
25				ヘナナリ	ヘナナリ	<i>Cerithidea cingulata</i>		●		
26				カワアイ	カワアイ	<i>Cerithidea djadjariensis</i>		●		
27				オニノツノガイ	オニノツノガイ (イワニモリ)	<i>Clypeomorus batillariaeformis</i>		●	●	
28					カワツノガイ (カスリカニニナ)	<i>Clypeomorus bifasciata</i>		●	●	
29					カワツノガイ (カスリカニニナ)	<i>Clypeomorus petrosa</i>		●	●	
30					チユウカワツノガイ	<i>Cerithium trailii</i>		●	●	
31					カワツノガイ	<i>Cerithium coralim</i>		●		
32				チマカ イ	チマカ イ	<i>Natica gualtieriana</i>		●	●	
33				チビ キレガイ	チビ キレガイ	<i>Truncatella guerinii</i>		●		
34			新腹足	ウツキガイ	ウツキガイ	<i>Morula anaxeres</i>		●	●	
35					ウツキガイ	<i>Morula granulata</i>		●	●	
36					ウツキガイ	<i>Muricodrupa fuscilla</i>		●	●	
37					ウツキガイ	<i>Muricodrupa fusca</i>		●	●	
38				ムシロガイ	ムシロガイ	<i>Nassarius coronatus</i>		●		
39					ムシロガイ	<i>Pliacularia bellula</i>		●	●	
40					ムシロガイ	<i>Niotha nodifer</i>		●		
41				エゾバシ	エゾバシ	<i>Japentheria cingulata</i>		●	●	
42			収眼	イソアワモチ	イソアワモチ	<i>Peronia verruculata</i>		●	●	
43			基眼	オカミカガイ	オカミカガイ	<i>Melampus fasciatus</i>		●	●	
44					オカミカガイ	<i>Melampus flavus</i>		●	●	
45					オカミカガイ	<i>Melampus nuxeastaneus</i>		●	●	
46					オカミカガイ	<i>Melampus taeniolatus</i>		●	●	
47			二枚貝	フネガイ	フネガイ	<i>Barbatia bicolor</i>		●		
48					フネガイ	<i>Barbatia virescens</i>		●	●	
49					フネガイ	<i>Barbatia cruciata</i>		●	●	
50				サカマキガイ	サカマキガイ	<i>Physa acuta</i>	●			
51				イカガイ	イカガイ	<i>Hormomya mutabilis</i>		●	●	
52					イカガイ	<i>Modiolus auriculatus</i>		●	●	
53				マカガイ	マカガイ	<i>Isognomon pernum</i>		●	●	
54			カキ	イタカガイ	イタカガイ	<i>Saccostrea mordax</i>		●		
55				マルスターレガイ	マルスターレガイ	<i>Pillucina pisidium</i>		●		
56					マルスターレガイ	<i>Mactra cuneata</i>		●		
57				フジノハナガイ	フジノハナガイ	<i>Latona faba</i>		●	●	
58				ニッコウガイ	ニッコウガイ	<i>Moerella culter</i>		●		
59					ニッコウガイ	<i>Pistris capsoides</i>		●		
60				アサシガイ	アサシガイ	<i>Semala carnicolor</i>		●	●	
61				マルスターレガイ	マルスターレガイ	<i>Gafrarium pectinatum</i>		●	●	
62					マルスターレガイ	<i>Gafrarium tumidum</i>		●	●	
63					マルスターレガイ	<i>Pitar sulfreum</i>		●		
64					マルスターレガイ	<i>Ruditapes variegatus</i>		●	●	
65					マルスターレガイ	<i>Katelysia hiantina</i>		●	●	
66					マルスターレガイ	<i>Cyclina sinensis</i>		●		
67				イワナガイ	イワナガイ	<i>Claudiconcha monstrosa</i>		●	●	
68	節足動物	顎脚	無柄	クロフシツボ	クロフシツボ	<i>Tetraclita squamosa</i>			●	
69				フシツボ	フシツボ	<i>Balanus albicostatus</i>		●	●	
70					フシツボ	<i>Balanus amphitrite</i>		●	●	
71			等脚	フナムシ	フナムシ	<i>Ligidium ryukyense</i>	●	●	●	

表2-2 周辺海岸域で確認された種一覧（その2）

番号	門	綱	目	科	種名	学名	L-4 (魚介類・ 大型)	L-5 (魚介類・ 大型)	L-6 (魚介類・ 大型)	N (底生生 物小型)
72	節足動物	軟甲	口脚	シヤコ	シヤコ属	<i>Oratosquilla</i> sp.		●		
73			十脚	クルマエビ	クルマエビ属	<i>Panaeus latissulcatus</i>			●	
74						Penacidae		●		
75				テッコウ	テッコウ属	<i>Alpheus</i> sp.		●		
76				スナモリ	スナモリ属	<i>Callinassa</i> sp.		●		
77				ヤドカリ	ヤドカリ属	<i>Clibanarius corallinus</i>			●	
78					ヤドカリ	<i>Clibanarius humilis</i>			●	
79					ヤドカリ	<i>Clibanarius eurysternus</i>			●	
80					ヤドカリ	<i>Clibanarius longitarsus</i>		●		
81					ヤドカリ	<i>Clibanarius striolatus</i>			●	
82					ヤドカリ	<i>Clibanarius</i> sp.		●		
83					ヤドカリ	<i>Calcinus laevimanus</i>			●	
84					ヤドカリ	<i>Coenobita rugosus</i>	●	●		
85					ヤドカリ	<i>Coenobita purpureus</i>	●			
86					ヤドカリ	<i>Pagurus hirtimanus</i>			●	
87					ヤドカリ	<i>Pagurus</i> sp.		●		
88					ヤドカリ	<i>Neorhychochela okinawaensis</i>		●		
89					ヤドカリ	<i>Portunus pelagicus</i>		●	●	
90					ヤドカリ	<i>Thalamita crenata</i>		●	●	
91					ヤドカリ	<i>Thalamita danae</i>		●	●	
92					ヤドカリ	<i>Thalamita admete</i>		●	●	
93					ヤドカリ	<i>Thalamita prymna</i>		●	●	
94					ヤドカリ	<i>Scylla serrata</i>	●			
95					ヤドカリ	<i>Actumnus setifer</i>			●	
96					ヤドカリ	<i>Leptidius exaratus</i>		●	●	
97					ヤドカリ	<i>Parapilumnus trispinosus</i>			●	
98					ヤドカリ	Xanthidae		●		
99					ヤドカリ	<i>Cardisoma carnifex</i>	●			
100					ヤドカリ	<i>Metopograpsus messor</i>		●		
101					ヤドカリ	<i>Pachygrapsus minutus</i>			●	
102					ヤドカリ	<i>Gaeticus depressus</i>			●	
103					ヤドカリ	<i>Gaeticus unguatus</i>			●	
104					ヤドカリ	<i>Micrurus brevicaudatus</i>		●	●	
105					ヤドカリ	<i>Macrophthalmus convexus</i>		●		
106					ヤドカリ	<i>Macrophthalmus banzai</i>		●		
107					ヤドカリ	<i>Macrophthalmus bosci</i>		●		
108					ヤドカリ	<i>Camptandrium sexdentatum</i>		●		
109					ヤドカリ	<i>Scopimera globosa</i>			●	
110					ヤドカリ	<i>Uca perplexa</i>		●		
111					ヤドカリ	<i>Uca vocans</i>		●		
112					ヤドカリ	<i>Crocothemis servilia servilia</i>	●			
113					ヤドカリ	<i>Orthetrum sabina sabina</i>	●			
114					ヤドカリ	<i>Tholymis tillarga</i>	●			
115					ヤドカリ	<i>Ischnura senegalensis</i>	●			
116					ヤドカリ	<i>Hydrovatus acuminatus</i>	●			
117					ヤドカリ	Dytiscidae	●			
118					ヤドカリ	<i>Sternolophus rufipes</i>	●			
119					ヤドカリ	Hydrophilidae	●			
120	脊椎動物	硬骨魚	カレイ	カレイ	カレイ	<i>Elops hawaiiensis</i>		●		
121			ニシ	ニシ	ニシ	<i>Nematalosa come</i>		●		
122					ニシ	<i>Nematalosa japonica</i>		●		
123					ニシ	<i>Gambusia affinis affinis</i>	●			
124					ニシ	<i>Liza cephalus cephalus</i>		●		
125					ニシ	<i>Chelon affinis</i>		●		
126					ニシ	<i>Liza macrolepis</i>		●		
127					ニシ	<i>Leiognathus fasciatus</i>		●		
128					ニシ	<i>Lutjanus fulviflamma</i>		●		
129					ニシ	<i>Gerres acinaces</i>		●		
130					ニシ	<i>Caranx sexfasciatus</i>		●		
131					ニシ	<i>Oreochromis mossambicus</i>	●			
132					ニシ	<i>Acanthopagrus siviculus</i>		●		
133					ニシ	<i>Favonigobius gymnauchen</i>		●		
134					ニシ	<i>Mugilogobius</i> sp.	●			
135					ニシ	<i>Scartelaos histophorus</i>		●		
136					ニシ	<i>Siganus guttatus</i>		●		
137					ニシ	<i>Sphyaena barracuda</i>		●		
138					ニシ	<i>Chelonodon patoca</i>		●	●	
出現種合計							21	89	55	1

表2-3 泡瀬第一雨水幹線で確認された種一覧

番号	門	綱	目	科	種名	学名	泡瀬第一雨水幹線	
								指定状況
1	軟体動物	腹足	中腹足	タマキヒガイ	ヒメウスラタマキヒ	<i>Littoraria intermedia</i>	●	
2				トウカクカカリニ	タイワンカカリニ	<i>Thiara tuberculata formosana</i>	●	
3			基眼	オカミガイ	ウツシマミガイ	<i>Cassidula mustelina</i>	●	
4					ハマシノミガイ	<i>Melampus nuxeastaneus</i>	●	
5	節足動物	軟甲	等脚	フナムシ	リュウキュウフナムシ	<i>Ligidium ryukyense</i>	●	
6				十脚	ヤトカリ	ツマナクヨコバサミ	<i>Clibanarius longitarsus</i>	●
7			オカガニ		ミナミオカガニ	<i>Cardisoma carnifex</i>	●	
8			モクスガニ		オヒビライガニ	<i>Varuna litterata</i>	●	
9					タイワンオヒライガニ	<i>Varuna yui</i>	●	
10			ヘンケイガニ		ミナミシハラガニ(リーチアシハラガニ)	<i>Helice leach</i>	●	
11			スナガニ		ツノメチコガニ	<i>Tmethypocoelis ceratophora</i>	●	
12					オキナワハクセンシオマキ	<i>Uca perplexa</i>	●	
13			脊椎動物		硬骨魚	ネスミギス	サバヒー	<i>Chanos chanos</i>
14				ススキ		ホラ	セスジホラ	<i>Chelon affinis</i>
15				コホラ		<i>Liza macrolepis</i>	●	
16		カラスメ		モサヒクテヒア(カラスメ)		<i>Oreochromis mossambicus</i>	●	
出現種合計							16	

表2-4 周辺海岸域で確認された貴重種一覧

\* N地点：小型底生動物調査地点

番号	門	綱	目	科	種名	学名	指定状況									
							国	環境省	沖縄県		L-4	L-5	L-6	N		
							1996	2005								
1	軟体動物	腹足	中腹足	グミナ	イボグミナ	<i>Batillaria zonalis</i>			準		●	●				
2				トウカクカカリニ	イボアヤカリニ	<i>Thiara granifera</i>		準		●						
3				フトヘナガリ	フトヘナガリ	<i>Cerithidea cingulata</i>		準		●						
4				カリアイ	カリアイ	<i>Cerithidea djadjariensis</i>		準		●						
5				オニノツノガイ	オニノツノガイ(カスリカニモリ, アラカニモリ)	<i>Clypeomorus bifasciata</i>		準		●		●				
6					コダツツノエ	<i>Cerithium coralinum</i>		準		●						
7				アタキガイ	ヨウラケイシカイタマシ	<i>Muricodrupa fiscella</i>		準				●				
8					ムシロガイ	カニテムシロ	<i>Piurularia bellula</i>		準		●	●				
9						ヒメオドリムシロ	<i>Niotha nodifer</i>			II		●				
10				二枚貝	マルスタレガイ	ニッコウガイ	トウリウシオガイ	<i>Moerella culter</i>				IB		●		
11							イチョウソラトリ	<i>Pistris capsoides</i>				準		●		
12							マルスタレガイ	イオウハマダリ	<i>Pitar sulfreum</i>				準		●	
13								ヤエヤマダレ	<i>Katylsia hiantina</i>				準			●
14								オキシジミ	<i>Cyclina sinensis</i>				IB		●	
15	節足動物	軟甲	十脚			オカヤトカリ	オカヤトカリ	<i>Coenobita rugosus</i>	国			●	●			
16					ムササビヤトカリ	<i>Coenobita purpureus</i>	国				●					
17					ヤウラケニ	オキナワヤウラケニ	<i>Neorhychoplax okinawaensis</i>			希少	II		●			
18					モクスガニ	オキナワヒライガニ	<i>Gaetice unguatus</i>			希少				●		
19					ミナモメツキガニ	ミナモメツキガニ	<i>Mictyris brevidactylus</i>			地域			●	●		
20				脊椎動物	硬骨魚	ニシン	トコロイ	<i>Nematalosa japonica</i>				準		●		
21						ススキ	ハゼ	トカゲハゼ	<i>Scartelaos histophorus</i>		IA	危惧	IA		●	
出現種合計							2	2	4	17	3	16	7	0		

- 注1. 天然記念物：「文化財保護法」(昭和25年法律第214号)  
国→国指定天然記念物
- 注2. 環境省：「改訂・絶滅のおそれのある野生生物」(2000～2005年環境省)及び「無脊椎動物(昆虫・クモ類・甲殻類)のレッドリストの見直しについて」(2000年環境庁)  
I A→絶滅危惧 I A類  
I B→絶滅危惧 I B類 (該当無し)  
II→絶滅危惧 II類 (該当無し)  
準→準絶滅危惧 (存続基盤が脆弱な種-現時点での絶滅危険度は小さいが、生息条件の変化によっては「絶滅危惧」として上位ランクに移行する要素を有するもの)  
地域個体群→地域的に孤立しており、地域レベルでの絶滅のおそれの高い個体群(該当無し)。
- 注3. 沖縄県：「沖縄県の絶滅のおそれのある野生生物—レッドデータおきなわ—」(1996年 沖縄県)  
危急→危急種 (該当無し)  
希少→希少種 (現在のところ「絶滅危惧種」にも「危急種」にも該当しないが、生息条件の変化によって容易に上位のランクに移行するような要素(脆弱性)を有するもの)  
危惧→絶滅の危機に瀕しているもの  
地域→絶滅のおそれのある地域個体群(該当無し)
- 注4. 沖縄県：「沖縄県の絶滅のおそれのある野生生物—レッドデータおきなわ—」(2005年 沖縄県)  
I A→絶滅危惧 I A類。沖縄県では、ごく近い将来における野生での絶滅の危険性が極めて高いもの。  
I B→絶滅危惧 I B類。沖縄県では I A類ほどではないが、近い将来における野生での絶滅の危険性が高いもの。  
II→絶滅危惧 II類。沖縄県では絶滅の危機が増大している種。  
準→準絶滅危惧。沖縄県では存続基盤が脆弱な種。  
地域→絶滅のおそれのある地域個体群(該当無し)

表2-5 泡瀬第一雨水幹線で確認された貴重種一覧

番号	門	綱	目	科	種名	学名	指定状況				泡瀬第一雨水幹線
							国	環境省	沖縄県		
							1996	2005			
1	節足動物	軟甲	十脚	モクスガニ	タイワンオヒライガニ	<i>Varuna yui</i>				準	●
出現種合計							0	0	0	1	1

- 注1. 天然記念物：「文化財保護法」(昭和25年法律第214号)  
(該当無し)
- 注2. 環境省：「改訂・絶滅のおそれのある野生生物」(2000～2005年環境省)及び「無脊椎動物(昆虫・クモ類・甲殻類)のレッドリストの見直しについて」(2000年環境庁)  
(該当無し)
- 注3. 沖縄県：「沖縄県の絶滅のおそれのある野生生物—レッドデータおきなわ—」(1996年 沖縄県)  
(該当無し)
- 注4. 沖縄県：「沖縄県の絶滅のおそれのある野生生物—レッドデータおきなわ—」(2005年 沖縄県)  
I A→絶滅危惧 I A類。沖縄県では、ごく近い将来における野生での絶滅の危険性が極めて高いもの。(該当無し)  
I B→絶滅危惧 I B類。沖縄県では I A類ほどではないが、近い将来における野生での絶滅の危険性が高いもの。(該当無し)  
II→絶滅危惧 II類。沖縄県では絶滅の危機が増大している種。(該当無し)  
準→準絶滅危惧。沖縄県では存続基盤が脆弱な種。  
地域→絶滅のおそれのある地域個体群(該当無し)







比屋根湿地前面干潟 (L-5)



・石組み護岸部においては、カミガイ科、アマガハ科、ウレガイ科が確認された。比屋根湿地前干潟では、砂泥質の干潟が広がっており、ツバキガハコトガハコ等の砂泥の底質を好む生物が確認された。また、所々に見られる転石には、マルアサギ等のアマガハ科、シマウツクハコイ等が確認された他、砂泥中には、ヒメアサリ、ホシシジミなどの埋在性の二枚貝が確認された。



ヒメアサリ



トカゲハゼ



フタハオサガニ

泡瀬第一雨水幹線



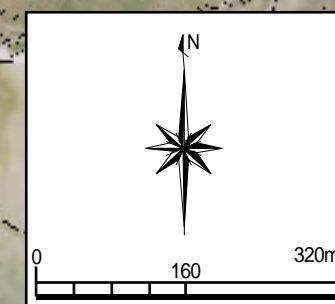
・泡瀬第一雨水幹線では、3面張りの構造になっており、一様な環境であった。川底には転石が僅かに点在していた。雨水幹線出口付近には、砂浜が存在し、シマウツクハコイ、ミナソバガハコイ等が確認された。幹線内においては、カラスズメが優占していた。



カラスズメ



泡瀬通信施設



旧塩田前干潟 (L-6)

旧塩田前干潟 (L-6)



・旧塩田前干潟のテトラポット部分である飛沫帯では、乾燥に強いアマガハ科、キバアマガイ等の限られた生物が確認された。干潟部においては底質の大部分は砂礫であり、イボウミナ等のカミコシ類や、ヤドカリ類、ミナソバガハコイ、カンギク等が広範囲で普通に見られた。また、砂礫中には、ソシジメガハコイ、アラスジケマンガイ等の埋在性二枚貝も確認された。



カンギク



ミナソバガハコイ



アラスジケマンガイ

県総合運動公園内塩性湿地 (L-4)

県総合運動公園内塩性湿地 (L-4)



・県総合運動公園内塩性湿地では、ホシシジミ、トナリ類、ゲンゴロウ類が確認された他、汽水性の生物であるアサギ、アサギササミなどが確認された。塩性湿地内においては、ホシシジミガハコイ、ホシシジメ、ホシシジメ等が多く確認された。



ホシシジメガハコイ



カラスズメ



ホシシジメ

泡瀬海岸の水生動物(魚類、貝類、甲殻類、その他)の特徴

泡瀬海岸周辺の干潟には、砂質、砂礫質、泥質等の様々な底質の場所が存在しており、環境ごとに出現する生物に違いが見られ、様々な生物が生息している。比屋根湿地の前には、砂泥質の干潟が存在し、トカゲハゼ、イチョウシラトリ、オキシジミ等の泥質の環境を好む生物が生息している。旧塩田前には砂礫質の干潟が存在し、アラスジケマンガイ、カンギク等が見られる。この付近は満潮時に護岸直下まで水没し、大潮高潮線に見られるオカヤドカリ類やオカガニ類は生息していない。塩性湿地では、ティラピア類やカタヤシ類が優占している。泡瀬第1雨水幹線は、コンクリートにより3面張りの整備がされており、生物の生息環境に乏しく、また生活排水の流入のため汚濁が見られ、生物の生息種数は少ない傾向にあった。

図2-3 泡瀬海岸周辺における魚類・底生生物の出現状況



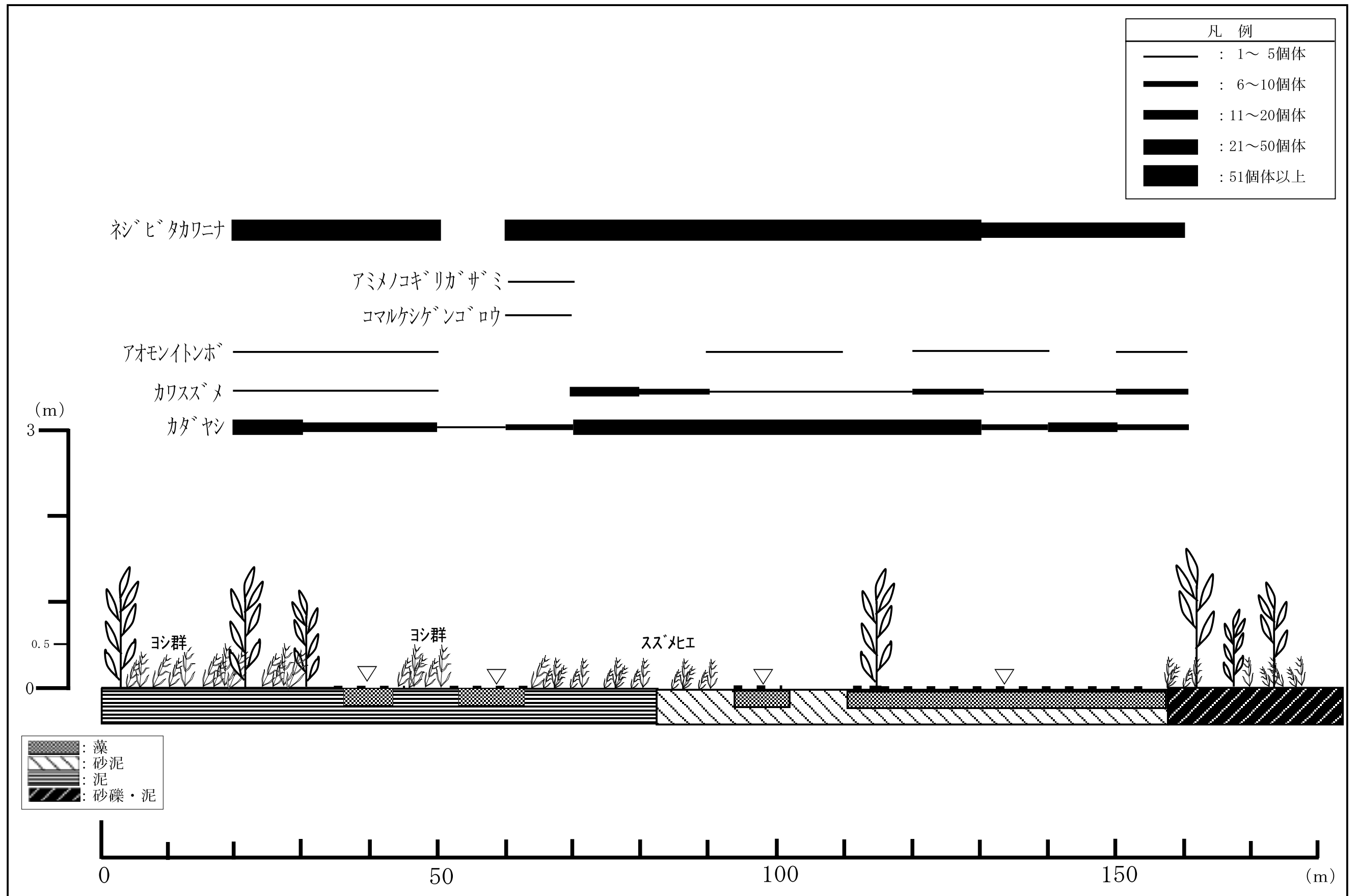


図2-4① 泡瀬地区海岸域ライン調査結果(L-4: 県総合運動公園塩性湿地)

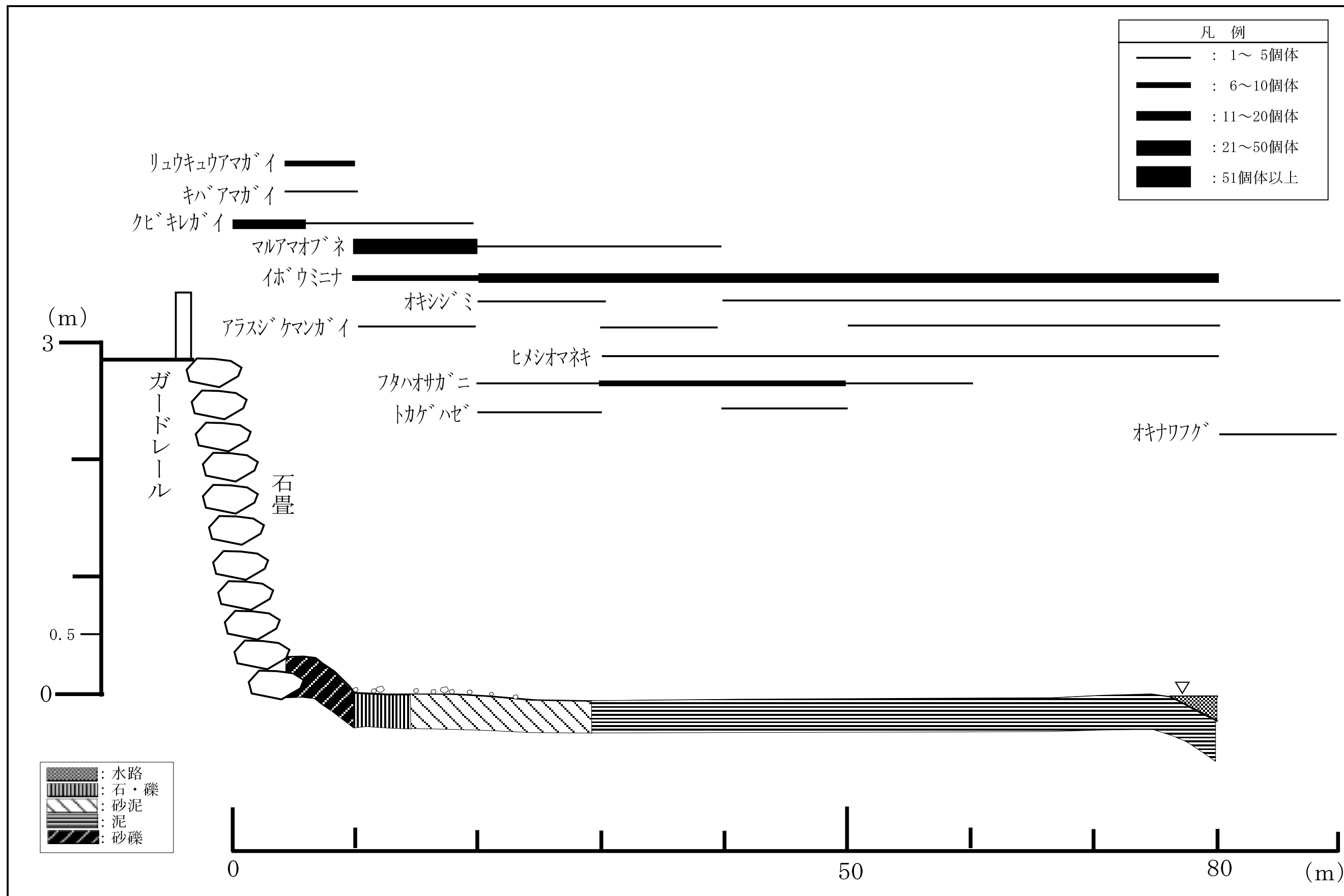


図2-4② 泡瀬地区海岸域ライン調査結果(L-5:比屋根湿地前干潟)



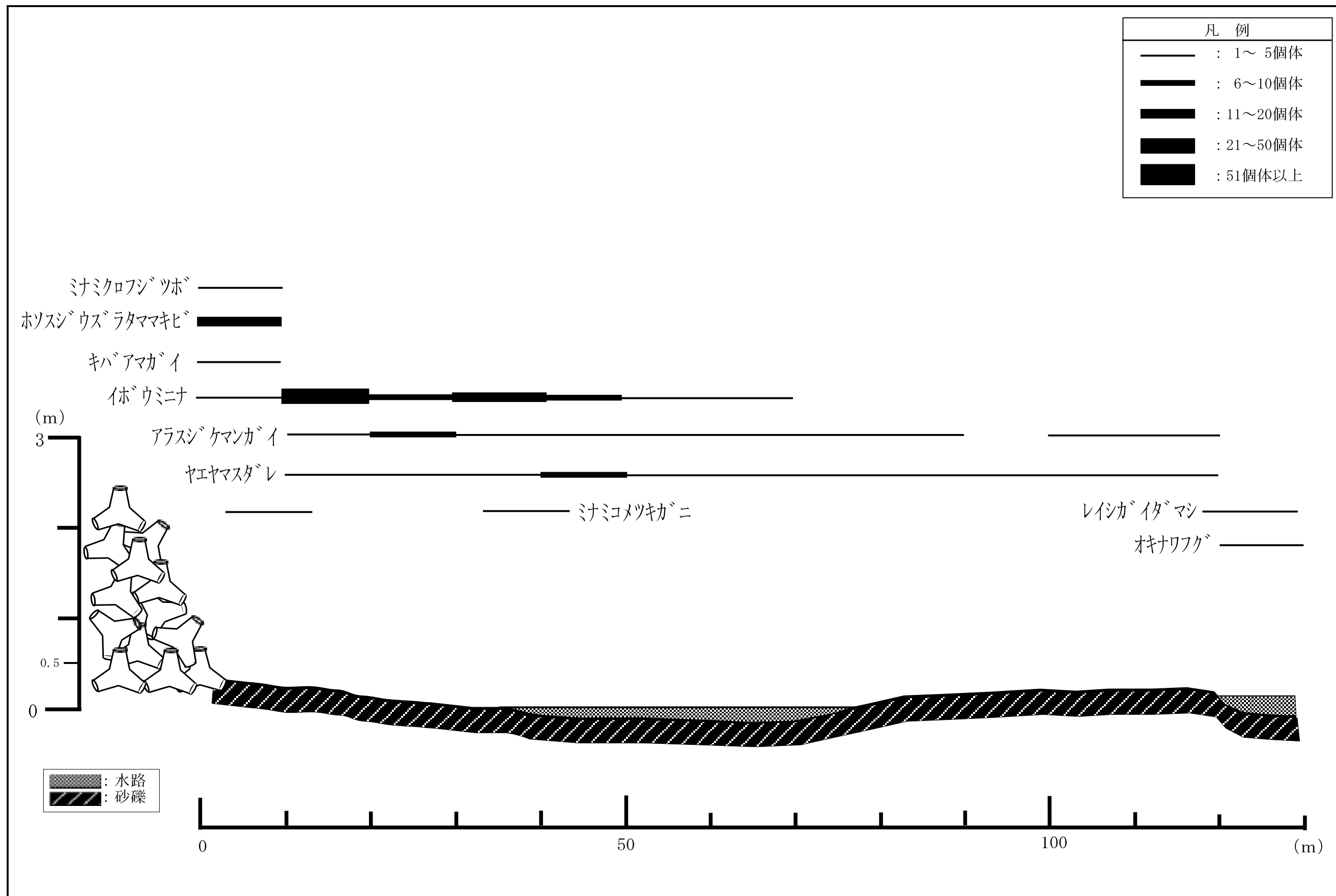


図2-4③ 泡瀬地区海岸域ライン調査結果(L-6:泡瀬3丁目(旧塩田)前干潟)